



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第二〇五号）

夏至<sup>げし</sup> 六月二十二日

## 神宮美術館庭園

伊勢市倉田山にある神宮美術館の庭園が一般に公開されるようになりまし  
た。

神宮美術館は、前回の第六十一回式年遷宮を記念して平成五年に開館。日  
本を代表する美術・工芸家の作品が一堂に展示されています。

美術館に面した庭園は広さ六千七百平方メートル。別宮の倭姫宮やまとひめのみやに続く道  
路沿いと美術館の駐車場に出入り口があります。道路沿いにある神宮美術館  
庭園の案内板から入ると、白い石を敷き詰めた枯山水から美術館が望めます。

回廊に展示されたブロンズ像も見え、普段と逆の景色が楽しめるのです。

さらに進むと、大木が多く立つのには驚きました。ここは明治時代に建て  
られた神宮農業館の付属植物園があったところで、古い巨木は残し、ツバキや  
梅、シヤクヤク、ユリなどを新たに植栽し、一年かけて整備したもの。大木は  
明治時代に植えられたものです。木に付けられた名札を確認していくと、さ  
すが元植物園だけあって多品種の植物があります。

ひととき大きな木は、台湾檜。台湾原産の檜で、とくに大木から製材され  
るため長さと大きさが必要な社寺建築に適していると、日本の檜の代用品と  
して使用されました。東京の明治神宮の大鳥居は樹齢千五百年を超える台湾  
檜で、柱は高さ十二メートル、胴回り一二〇メートルほど。また奈良県の法  
隆寺の改修、再建にも活用されましたが、現在、台湾全域で伐採禁止となり、  
日本には入ってこなくなっています。

伊勢神宮の社殿は国産の檜が使用されていますが、日本の社寺仏閣を支え  
た貴重な台湾檜が神宮の近くで静かに育っていたのです。神宮美術館の楽し  
みが一つ増えました。

文 千種清美

